

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2017』にてご確認ください。
  - ・ p. 4～5→学年暦　・ p. 6～11→通信教育部カレンダー
  - ・ p. 38～41→社会福祉士　演習・実習科目関連締切等
  - ・ p. 42～44→精神保健福祉士　演習・実習科目関連締切等

## 5 / 8～6 / 11 の追加・変更点

- 6 / 10 「社会福祉援助技術実習指導B-2」会場  
青森：(変更前) アスパム → (変更後) ホテルサンルート青森  
郡山：(変更前) 郡山女子大学 → (変更後) 郡山市労働福祉会館
- 6 / 11 「社会福祉援助技術実習指導B-2」(東京会場) 終了時間  
(変更前) 13：30～16：40 → (変更後) 13：30～16：45

## 2017年度4月新入生の方へ

2017年度4月新入生で夏期スクーリングⅡを受講希望の方は本冊子4部をお読みのうえ、巻末申込ハガキを使用し、お申込みください。

## 郵便料金の改定について

6 / 1 より、ハガキの料金が52円から62円に引き上げられるなど、郵便料金の一部が改定されます。ご注意ください。　(※本冊子 p. 49参照)

入学された方へ

# ご入学おめでとうございます

教員 MESSAGE

教授 田中 治和

ご入学お慶びもうしあげます。

お仕事やご家庭での諸事情があるなかで、ご入学という第一歩を踏み出された皆様のご決断を心より敬服致します。

本学通信教育部、並びに通信制大学院に入学された方々に、担当教員のひとりとして、私が通信教育部で学んだこと・考えたことの一部を述べさせていただきます。

私は、2002（平成14）年に、通信教育部が開設された当時から学部と大学院で、講義・演習・実習指導を担当してきました。数えて見ればこの四月で15回目の春を迎えました。開設準備の段階で、社会福祉原論等を担当する依頼があった時に、それまでそれなりに大学に勤務しており、通学制での経験で何とかなるだろう…と、安易に考えておりました。

しかし現実は大きくかなり違っていました。連続三日間のスクーリングという集中講義、そして教室に立ちこめる熱心な視線、時折の鋭い質問等々。レポート添削においては、お一人おひとりの貴重な人生の物語を拝読し、暫し沈思黙考せざるを得ないことが少なからずありました。深い人生経験をされた方々の前で、「私は、よくも人生がわかったような話し（講義？）ができたもの」と恥じ入るばかりです。また大学院での演習では、担当教員が不要なぐらい、いつまでも続く討論、研究に対する実直さを痛感しました。論文指導を含め、演習参加者は、社会福祉士等の福祉専門職をはじめ、医師、看護師、作業療法士、理学療法士、管理栄養士、及び介護支援専門員等々まるで多職種連携によるカンファレンスのような時もありました。

もし私が、通信教育部に関わらなかったら、このような世界には辿り着

けなかったのではないのでしょうか。

大学は、学問をする場です。私は、学問とは何か・学ぶとは何かを、林竹二（1906－1985）の学問観を論拠としています。

「学ぶとは、いつでも、何かが始まることで、終わることのない過程に一歩ふみこむことである。一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでしまったことでないか。学んだことの証しは、ただ一つで、何かがかわることである。それでは何が変わるのだろうか。学問の場合、それは先ほど言いましたように、ものを見る見方・考え方が変わり、生き方が変わるということです。そして見方が変われば、それに応じて世界そのものが変わってくる。」（『著作集第10巻生きること学ぶこと』筑摩書房、1987年、148頁）

私は、この林の所説の意味を、通信教育部の講義・演習の営為のなかで、微かながらも確信することができたと考えております。学ぶとは何かを具体的に思索したのは、通信教育部の学生・院生との関わりであり、また2004（平成16）年以降、拙いながらも纏めた論文は、あのスクーリングでの講義内容と密接に関連しています。その意味で、私にとっての通信教育部は、まさに研究と教育が一体化する《大学》であったわけです。

この春に入学された学生・院生の方々にお伝えしたいことがあります。

本学通信教育部は、高い合格率の実績ある社会福祉士等の国家試験受験資格を得る場であり、キャリアアップにもなる修士（社会福祉学等）を得る場です。

しかしながら併せて、本学通信教育部は、本質的に学問をする《大学》としての器であることを、どうぞ忘れないでいただけないでしょうか。共に学修を深めて参りましょう。